

完了報告書

1. 基本情報	
(1) 案件名	エルメラ県アッサベ郡農業用水改善事業 (3年次)
(2) 事業地	東ティモール民主共和国 エルメラ県アッサベ郡
(3) 贈与契約締結日 及び事業期間	・ 贈与契約締結日 : 2023年2月10日 ・ 事業期間 : 2023年2月14日~2024年2月13日
(4) 団体名・連絡先, 事業担当者名	(ア) 団体名 : 公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン (CARE International Japan) (イ) 電話 : 03-5950-1335 (ウ) FAX : 03-5950-1375

2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度	<p>プロジェクト目標：エルメラ県アッサベ郡において、年間を通して安定的な農業活動が実現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指標：対象農民グループ（以下、FG(Farmer Group)）メンバー計 291 人のうち、85%以上が継続的に農業用水設備を利用しながら野菜栽培を行っている。 ・注：なお、メンバー数は、初年度申請時の 223 人（3 年次申請時の 291 人）から、3 年次終了時点で 233 人に変動し、よって、目標値については 3 年次終了時点のメンバー数に対しての 85%以上とした。¹ <p>上記プロジェクト目標達成に向けて、およそ 3 年間にわたり、農業用水設備の設置を進め、並行して、設備を維持管理し野菜栽培に有効に裨するため、様々な技術研修や実演活動を実施し、対象農民グループの能力を強化してきた。</p> <p>「(3)達成された成果」において詳述する通り、全対象 12 集落で設置した農業用水設備によって、雨季乾季の季節に左右されず水が得られるようになり、野菜栽培を主目的とした農地面積は計 2,700 m² (25m x 4.5m x 2 ビニールハウス x 12FGs) と飛躍的に拡大した。結果、天水頼りの穀物中心の農業から野菜を取り入れた農業への転換が図れた。3 年次終了時点で、12 農民グループ全てで点滴灌漑設備を整備した農地計 2,700 m²において、通年で 98.5%の農民グループメンバーが野菜栽培に取り組んでいることを確認している。活動の両輪である農業インフラの整備とそれを活用する農民グループの能力強化によって成果が現れ、プロジェクト目標の達成に資することができた。</p> <p>上位目標(エルメラ県アッサベ郡の生業状況が改善する)について、その達成に向けた本事業での貢献と課題について考察する。本事業では、標高や土壌の質といった農地の特性や地域での市場価値を考慮し、3 年にわたり様々な野菜を実験的に栽培し、栽培する野菜の種類を 18 種類にまで多様化することができた。本事業の 3 年間では、通年で安定して野菜栽培ができるところまでをその事業範囲とし、収入向上までは含めていない。しかしながら、学校給食用としてや地元の市場で野菜を一部販売するようになり、自家消費用に留まらず収入創出を意識した野菜栽培へと農民グループの意識が転換してきたことが伺える。野菜栽培によって新たに収入を創出できたことは、上位目標である生業状況の改善への一歩となったと思料する。一方で、アッサベ域内市場は小さいことから、本格的な収入向上には、域外より大きな市場を見据えた販路拡大のための継続的な取り組みが求められる。</p> <p>さらに、本事業ではジェンダー平等を促進する観点から、農業及び家庭内において当然と捉えられがちな男女の役割分担や力関係について男女の意識と行動の変革を促すとともに、女性農民メンバーのリーダーシップの醸成を図ってきた。女性農民に負担が偏りがちな水汲みや水やり労働に費やす時間を農業用水設備の設置によってゼロにすることができたことは、大きな成果である。更に強調すべきは、物理的な環境整備による女性の労働負担の軽減に加え、女性農民のリーダーシップ醸成や男女の役割分担の見直しによって、女性農民がグループ活動において自ら意見を表明し、より主体的に活動に関わるという変化が生まれてきた点である。本事業で策定した設備維持管理委員会の規定では、女性の積極的な参加を促す様々な取り決めや工夫が取り入れられており、変化の証左と言える。野菜の生産・販売活動など、生業にかかる活動への女性農民の主体的な参加は、同地の生業状況の改善に資する成果である。</p>
(2) 事業内容	<p>2023 年 2 月 14 日から開始し、2024 年 2 月 13 日に了した 3 年次事業では、事業対象地であるアッサベにおいて以下の活動を実施した。</p> <p>(ア) 農業用水設備(水源保全、貯水タンク、水路と点滴灌漑)の設置</p> <p>活動 1.1 「農業用水設備の設置場所に関する住民参加型ワークショップ」【1 年次、2 年次に実施済】</p> <p>活動 1.2 農業土木専門家による設備の詳細設計の策定【1 年次、2 年次に実施済】</p> <p>活動 1.3 農民グループを主体とした住民参加型による設備の造成 【2 年次造成組 - 7FGs の栽培面積拡大部分への設備増設】</p> <p>2 年次造成組である 7 集落 7FGs のメンバー 144 名(女性 76 名/男性 68 名)が利用する共同農地では、更に野菜が栽培できるように、5 月から 8 月にかけて順次拡大し(およそ 787.5 m²)、点滴灌漑設備を敷設した。また、畝を長くすることが難しく点滴灌漑に適さない一部農地にはスプリンクラーを敷設することで水がいきわたるようにした。2 年次造成組については、2 年次で点滴灌漑を敷設した農地面積 787.5 m²から更に倍増し、計 1,575 m²が点滴灌漑から取水しながら乾季でも野菜を栽培できるようになった。</p>

活動 1.4 農民グループを対象とした乾季の取水及び土壌管理に関する振り返り研修

3年次では、1年次及び2年次造成組の12FGsを対象に、土壌管理の知識と技術の定着を図るため振り返り研修を実施した。また、雨季と乾季で異なる課題に取り組める点や、時間を空けて振り返ることにより知識と技術が定着すると考えられる点から、同研修を2回(1日×2回)に分けて実施した。

- 研修実施者：

<1回目>2年次でも招聘した県農業局所属エクステンション・ワーカー・リーダーをトレーナーに、本事業のシニア・テクニカル・オフィサーが同トレーナーを補佐する形で研修を実施した。

<2回目>1回目で補佐役を担いながら研修の進め方を学んだ本事業のシニア・テクニカル・オフィサーがトレーナーとなり研修を実施した。

- 研修内容：

<1回目>3月から5月にかけて実施した振り返りでは、農地の準備、畝の作り方、野菜を植える間隔の開け方、ローテーション(輪作)、水やり、除草、防虫、施肥の方法、有機殺虫剤と有機肥料の作り方などについて復習した。その後、有機殺虫剤、2種類の有機液体肥料の作り方を実習した。

<2回目>11月から12月にかけて実施した振り返りでは、農業水産省園芸普及局の研修カリキュラム PAD (Good Agriculture Practice) に則り、有機農業の利点、野菜の輪作、野菜栽培のサイクルなどについて説明した後、コンポスト、有機液体肥料、有機農薬作りを実習した。特に、研修実施時期が雨季前であったことから、雨季に多く発生する病害虫対策も PAD モジュールに則って指導した。

<参加者>

<1回目>

No	日程	村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	FG メンバー		FG メンバー以外		合計
				女性	男性	女性	男性	
1	2023/3/30	Batumanu	Batuu	4	5	4	7	20
2	2023/4/19	Batumanu	Mutubau	9	3	2	2	16
3	2023/4/18	Laubonu	Biabote	7	4	3	3	17
4	2023/5/18	Laubonu	Sirui	4	5	0	0	9
5	2023/3/27	Leimea Leten	Buibaru	7	6	2	4	19
6	2023/4/5	Leimea Leten	Leulara	6	5	3	5	19
7	2023/3/29	Leimea Leten	Orbeto	4	2	4	6	16
8	2023/3/28	Leimea Leten	Raebou	13	9	2	1	25
9	2023/4/4	Leimea Leten	Raelia	7	6	1	5	19
10	2023/5/15	Obulo	Biliubu	3	5	1	6	15
11	2023/4/3	Obulo	Laku Ubu	5	6	3	3	17
12	2023/4/17	Obulo	Suriubu	6	4	5	5	20
総計				75	60	30	47	212

<2回目>

No	日程	村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	FG メンバー		FG メンバー以外		合計
				女性	男性	女性	男性	
1	2023/12/5	Batumanu	Batuu	5	3	1	5	14
2	2023/11/17	Batumanu	Mutubau	7	4	3	3	17
3	2023/11/16	Laubonu	Biabote	3	3	5	5	16
4	2023/11/29	Laubonu	Sirui	5	3	0	0	8
5	2023/11/24	Leimea Leten	Buibaru	5	2	5	3	15
6	2023/11/23	Leimea Leten	Leulara	9	3	6	0	18
7	2023/11/21	Leimea Leten	Orbeto	8	1	3	1	13

¹ 申請時のメンバー数 223 人、1年次終了時のメンバー数 251 人、2年次終了時のメンバー数 291 人、3年次終了時のメンバー数 233 人。事業期間を通して、メンバーの病気や活動への意欲の低下、または家庭の事情等の理由でメンバーの入れ替わりは発生してきた。3年次にそれぞれの農民グループでメンバーシップを見直し、活動に参加しない人はメンバーを辞めてもらい、関心の高い住民を新しくメンバーとして受け入れることとした。その結果、3年次終了時のメンバー数が2年次よりも少なくなった。メンバーを辞めても、会合や研修にはコミュニティメンバーとしていつでも参加できる措置を取った。

8	2023/11/15	Leimea Leten	Raebou	9	4	6	5	24
9	2023/11/22	Leimea Leten	Raelia	6	5	5	3	19
10	2023/11/20	Obulo	Biliubu	4	5	2	2	13
11	2023/11/14	Obulo	Laku Ubu	1	9	6	3	19
12	2023/11/30	Obulo	Suriubu	2	5	4	9	20
	総計			64	47	46	39	196

研修後はフィールド・スタッフが農民グループを訪問し、フォローアップ指導を継続した。フォローアップ指導では、苗の作り方から、苗の移植の仕方、施肥のタイミングなどの指導をきめ細かく行うとともに、シャベル、山刀、鍬、じょうろ、苗床用ポット、ハンドスプレー、苗床用ネットなどの農具を提供し作業の効率化に努めた。

● 種の配布：

1年次、2年次を通して、農民グループごとの関心や市場での販売可能性を考慮して植える野菜を決め、様々な種子を配布し試験的に栽培してきた。3年次では、1年次、2年次での経験を踏まえ、今まで比較的良好に育ち、更に市場価値の高い野菜を厳選し、高菜、トマト、ナス、パプリカ、レタス、芥子菜、ズッキーニ、ブロッコリー、チンゲン菜、ロングビーンズ、白菜、キャベツ、レッドキャベツ、ビーンズ、カリフラワー、ハウレンソウ、ニガウリ、トウガラシなどを配布した。

(イ) 農業用水設備の維持管理

活動 2.1 対象農民グループ、農業普及員及びコミュニティ(村落または集落村)の3者合同の設備維持管理委員会(FMC: Facility Management Committee)の発足【1年次、2年次に実施済】

活動 2.2 : 設備維持管理委員会を対象とした設備の維持管理に関する振り返り研修(保守修繕振り返り研修/規定の改訂)

1) 保守修繕振り返り研修：

● 研修実施者：

2年次で点滴灌漑用資材の販売業者所属の技術者から設備の保守修繕について学んだシニア・テクニカル・オフィサーが同研修を実施した。

● 研修内容：

6月から7月にかけて12集落において、点滴灌漑設備及び貯水タンクの保守点検と不具合があった時の修理の仕方を指導した。研修最終日には今後の保守点検のためのアクションプランを立てた。アクションプランには、1年次、2年次で直面してきた課題を踏まえ、以下を農民グループメンバーと会合に参加した集落の住民で同意した。なお、現在は利用者から定期的に給水設備使用料を徴収していないので、野菜の売上金の一部を修繕費のためにあてること、不足分は農民グループメンバーを含む集落住民で修理部品の購入費などを出し合うことを確認した。

- ・ 点滴灌漑用ホースが破損(例：穴が開く)した場合、速やかに修理する。
- ・ 毎週フィルター洗浄を行う
- ・ 2ヶ月に1回貯水タンクを洗浄する
- ・ 2ヶ月に1回液肥用タンクを掃除する
- ・ 設備が壊れた場合速やかに修理する。

<参加者>

No	日程	村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	FGメンバー		FGメンバー以外		合計
				女性	男性	女性	男性	
1	2023/6/19	Batumanu	Batuu	3	5	6	0	14
2	2023/6/27	Batumanu	Mutubau	5	4	3	3	15
3	2023/6/26	Laubonu	Biabote	9	3	3	1	16
4	2023/6/23	Laubonu	Sirui	4	5	0	3	12
5	2023/6/16	Leimea Leten	Buibaru	4	3	3	1	11
6	2023/6/22	Leimea Leten	Leulara	5	4	3	1	13
7	2023/7/6	Leimea Leten	Orbeto	6	1	7	2	16
8	2023/6/15	Leimea Leten	Raebou	7	6	2	4	19
9	2023/7/5	Leimea Leten	Raelia	5	7	2	3	17

10	2023/7/4	Obulo	Biliubu	5	3	3	1	12
11	2023/7/10	Obulo	Laku Ubu	4	5	1	1	11
12	2023/6/21	Obulo	Suriubu	5	3	4	3	15
総計				62	49	37	23	171

2) 設備維持管理委員会の規定の改訂：

<規定の改訂>

7月から8月にかけて上記の保守修繕振り返り研修を終えた集落から順次、規定の改訂に取り組んだ。シニア・テクニカル・オフィサーとフィールド・オフィサーが維持管理委員会（FMC）の話し合いをファシリテートして規定の改訂を行った。なお、同規定はFMCメンバーだけでなく農民グループのメンバー全員に関わることから、FMCメンバー以外の農民グループメンバーも参加した。

具体的には、最初に策定した規定がどの程度、農民グループメンバー間で浸透し順守されているかを確認しあいながら、積極的に参加しないFMCメンバーは交代することなどを新たに決められた。

規定の内容は、以下の通りとなる。なお、7番から10番と14番から16番は、これまで話し合いや経験を踏まえて、新しく加えられた規定であり、7番と8番は、FMCや農民グループメンバーのジェンダー平等についての考えが反映された規定である。3年間を通して、様々な機会においてジェンダー平等促進について働きかけてきた結果、当初の規定では反映されることのなかった、男女の公平な役割分担や女性の意思決定への参加という考え方が根付いてきたことが伺える。

1. 点滴灌漑設備の洗浄、開閉時間、点滴灌漑設備を使用した施肥スケジュール、定期的な維持管理活動の実施など、施設維持管理委員会の役割。
2. 全員が責任感を持って活動に参加する。
3. 全員が互いを尊重し、意見を言う。
4. 定例会合の開催時期をグループ内で決めることができる。
5. 会計係は集金に責任を持つ。
6. グループの説明責任と透明性を高める。
7. 女性がグループの活動に参加したときの負担が重くならないよう、家庭内で男女が協力して家事や育児を行う。
8. グループの意思決定には、男女が平等に参加する。
9. グループの問題はメンバーで話し合い解決する。メンバー間で解決できない問題は、村長や集落長に仲介を依頼する。
10. 会計係は野菜の売上金を管理する。売上金で給水システムの修理費をまかない、野菜生産に再投資する。
11. 野菜の栽培に関しては、植え付けや収穫の際にグループのメンバー全員が参加する。
12. 畑を巡回し、野菜の生育状況、病害虫の発生状況、点滴灌漑の設備等を確認し、必要に応じて害虫駆除等を行う。
13. 野菜の販売についてグループで決める。
14. 水源やパイプラインを災害や動物から守る。
15. 農場に十分な水が供給されるように、貯水タンクの栓の開閉時間を守る。
16. パイプラインの延長や分岐ラインの新規の設置については、農民グループメンバーとFMCメンバーで話し合い、合意した上で行う。
17. 積極的に活動しないFMCメンバーは交代する。

<参加者>

No	日程	村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	FGメンバー		FGメンバー以外		合計
				女性	男性	女性	男性	
1	2023/7/12	Batumanu	Batuu	5	5	2	3	15
2	2023/8/9	Batumanu	Mutubau	6	2	3	1	12
3	2023/8/21	Laubonu	Biabote	8	3	3	0	14
4	2023/8/29	Laubonu	Sirui	4	4	0	1	9
5	2023/8/7	Leimea Leten	Buibaru	4	5	5	0	14
6	2023/8/3	Leimea Leten	Leulara	6	3	0	0	9
7	2023/7/14	Leimea Leten	Orbeto	4	0	0	1	5
8	2023/8/8	Leimea Leten	Raebou	8	3	0	3	14

9	2023/7/13	Leimea Leten	Raelia	6	6	0	3	15
10	2023/8/15	Obulo	Biliubu	4	5	1	1	11
11	2023/8/14	Obulo	Laku Ubu	4	7	3	3	17
12	2023/8/30	Obulo	Suriubu	5	4	2	3	14
	総計			64	47	19	19	149

<ジェンダー分析ワークショップ>

上述の規定の改訂時にジェンダー平等の視点を取り入れるため、3月には内部ジェンダー専門家がフィールドを訪問し、農民グループメンバーのジェンダー平等に関する意識や行動に変容が見られるかなど、直接観察によって確認した。その結果も踏まえて、本事業のジェンダーフォーカルであるシニア・プロジェクト・オフィサーとジェンダー分析ワークショップのトピックやワークショップの進め方について話し合った。その後、4月から6月にかけて、12集落においてジェンダー分析ワークショップを開催した。

参加者の話し合いを促進するため、分析にあたっては、ジェンダーワークショップのファシリテーションツールであるポート・ウィズ・ユア・フィート²と、ジェンダー・ボックス³という2つの手法を用いた。同ワークショップでのプレテストとポストテストでは、女性が男性に依存するのではなく収入を得ることに同意する参加者が男性44%から86%、女性49%から86%に向上した。男性が外で稼ぎ、女性は家事や育児に専念するという伝統的な考えに固執する人がいる一方で、1年次からワークショップや研修を通して、ジェンダー平等、男女の公平な役割分担、女性の意思決定への参加や性別に基づく暴力予防のための啓発を行ってきたことで、ジェンダー平等の意識を持つ人も増えていることが伺え、上述の7番と8番の規定に繋がったと思料する。

● ポート・ウィズ・ユア・フィートのセッション内容：

同セッションでは、ジェンダーに関するいくつかの質問に参加者がイエスかノーで答え、その理由を説明した。具体的には、女性は冠婚葬祭のお金の使い方について男性に従わなければならないという質問に対して、従わなければ暴力を振るわれるなどの意見が聞かれた。また、女性は家事を行い、外で働くべきではないという質問については、文化的な影響で多くの女性が家事だけを行っているという意見が出る一方、男性も女性も平等な機会を与えられる権利があるという意見も出された。男性も女性も共に必要を満たすために働くべき、家畜を売るときは男女で相談して決めるべき、家事は男女が共に行うべきという声が多く聞かれた。

● ジェンダー・ボックスのセッション内容：

同セッションでは、経済活動と関連付け、男性グループは理想の女性像と理想から外れた女性像について、女性グループは理想の男性像と理想から外れた男性像について、参加者それぞれでカードに書き、さらに誰の影響でそのような考え方を持つようになったのかについて分析した。男女共に働き者でお金を稼ぐ人が理想であるという結果になった。また、お互いに信用する、尊重するなどの意見も書かれていた。女性グループは、理想の男性像として、女性がお金を稼ぐのを助ける男性、タイスを織る時間を認める男性、外で働く時間を認める男性などをあげていた。また、男性グループも、お金を稼ぐ女性を理想としていた。

<参加者>

No	日程	村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	FGメンバー		FGメンバー以外		合計
				女性	男性	女性	男性	
1	2023/4/11	Batumanu	Batuu	3	6	5	10	24
2	2023/4/27	Batumanu	Mutubau	4	1	5	6	16
3	2023/4/12	Laubonu	Biabote	9	6	4	5	24
4	2023/4/13	Laubonu	Sirui	0	7	5	8	20
5	2023/4/17	Leimea Leten	Buibaru	7	6	12	9	34
6	2023/4/14	Leimea Leten	Leulara	5	6	7	5	23
7	2023/4/26	Leimea Leten	Orbeto	3	2	6	1	12

² ポート・ウィズ・ユア・フィート：ジェンダーに関連した社会規範や慣習に関する短い文章をファシリテーターが読み上げ、参加者がそれぞれの意見を述べる手法。

³ ジェンダー・ボックス：男女別にグループ分けし、模造紙に四角を描き、四角の中に男性は典型的な男性像、女性は典型的な女性像を書き込む。その典型的な男女像はどこから来ているのか、誰の影響か（教会、学校、親）など分析する。その後、男女の役割、行動、社会規範において非典型的なものを四角の外に書き出し、非典型的な行動をとった場合どうなるか話し合う手法。

8	2023/5/12	Leimea Leten	Raebou	9	5	5	5	24
9	2023/4/19	Leimea Leten	Raelia	7	5	3	16	31
10	2023/5/15	Obulo	Biliubu	5	7	0	4	16
11	2023/6/1	Obulo	Laku Ubu	3	4	4	3	14
12	2023/4/28	Obulo	Suriubu	6	3	1	9	19
総計				61	58	57	81	257

活動 2.3 設備維持管理委員会の定例会合の実施

定例会合を1年次設立組（5集落5FGs）、2年次設立組（7集落7FGs）共に、4回ずつ開催した。最後の4回目の定例会合は、4村落において、後述の「活動2.7グループのネットワーク化の促進」の一環として、合同で定例会合を行った。

1年次からの取り組みを3年次でも継続し、定例会合の場を利用して、農業用水設備や農業全般に関するトピックだけでなく、地域住民の生活向上に繋がる情報発信やジェンダー平等やジェンダーに基づく暴力（GBV：Gender Based Violence）の予防の啓発にも力を入れた。

3年次では、延べ978人が参加し、参加者全体に地域住民が占める割合は55%（534人）で、1年次、2年次と比較しても参加率は伸びている。自分たちの生活に役立つと地域住民が感じ参加の動機付けとなっていることが伺える。

12集落12FGs	議題	参加者
1回目定例会合 (2023年6月、7月)	<農業> ・生産計画の立て方。 ・農民グループの生産計画策定。 <ジェンダー> ・GBVの問題分析。	・女性：125名 ・男性：92名 計：217名
2回目定例会合 (2023年7月8月)	<農業> ・野菜の売上金の管理方法と透明性の向上について。 <ジェンダー> ・固定的な性別役割分担と意思決定について気づきを促すセッション。	・女性：109名 ・男性：97名 計：206名
3回目定例会合 (2023年10月)	<農業> ・野菜栽培のプロセスと注意すべき点。 <ジェンダー> ・ポート・ウィズ・ユア・フィートという手法を用いた、GBV防止のための啓発。	・女性：149名 ・男性：69名 計：218名
4回目定例会合(村レベル) (2023年11月)	<農業> ・給水設備、ビニールハウス、点滴灌漑設備の不具合、野菜の害虫被害についての話し合い。 <ジェンダー> ・パイルソーティングという手法を用いた「女性がビジネスを行うことや生活向上のために貯蓄や借入れを行うこと」に関する男女の役割分担と意思決定についての話し合い。 <生活に役立つ情報> ・3つの栄養グループについて、栄養ゲームを用いた教育セッション。	・女性：181名 ・男性：156名 計：337名

活動 2.4 女性農民メンバーを対象としたパブリックスピーキング振り返り研修

1) 振り返り研修：

● 研修実施者：

シニア・プロジェクト・オフィサーが研修を担い、現地プロジェクト・マネージャーが補佐した。同シニア・プロジェクト・オフィサーは男性で、他のフィールド・スタッフも全て男性であり、女性へのアプローチにおいては良きロールモデルとなる女性スタッフの投入が不可欠との判断から、当初の予定では、女性の内部ジェンダー専門家が研修の一部を担う予定であった。しかし、都合により研修実施のタイミングでフィールド出張の予定を入れられなかったことから、研

修の構成内容について準備を行い、シニア・プロジェクト・オフィサーに事前にインプットする形で参加した。さらに、研修実施後の1月には内部ジェンダー専門家が同地を訪問しフォローアップ指導を行うとともに、後述のパブリックスピーキング発表会の当日に時間を設けて発表会参加者への指導とコーチングを行う措置を取った。

● 研修内容：

9月に12集落において同研修を実施した。なお、1年次、2年次と同様に、女性だけでなく男性メンバーも参加し、女性のリーダーシップの重要性について男性の理解を促進した。

具体的には、リーダーとリーダーシップについて、リーダーシップのタイプ（権威主義的、民主的、放任など、状況や立場によって使い分ける）、リーダーが持つ力をどのように有効に使うか、コミュニティにおける理想のリーダーについて学んだ後、効果的な話し方について講義した。その後、後述のパブリックスピーキング発表会で話すトピックについてグループで話し合い準備し、最後に発表会で発表する女性メンバーを選んだ。

<参加者>

No	日程	村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	FGメンバー		FGメンバー以外		合計
				女性	男性	女性	男性	
1	2023/9/12	Batumanu	Batuu	7	5	9	5	26
2	2023/9/27	Batumanu	Mutubau	4	3	3	1	11
3	2023/9/26	Laubonu	Biabote	10	4	7	4	25
4	2023/9/29	Laubonu	Sirui	3	4	10	6	23
5	2023/9/18	Leimea Leten	Buibaru	5	3	3	0	11
6	2023/9/14	Leimea Leten	Leulara	9	3	8	5	25
7	2023/9/15	Leimea Leten	Orbeto	7	1	6	0	14
8	2023/9/19	Leimea Leten	Raebou	9	0	6	4	19
9	2023/9/25	Leimea Leten	Raelia	8	3	2	3	16
10	2023/9/21	Obulo	Biliubu	1	0	8	10	19
11	2023/9/20	Obulo	Laku Ubu	4	5	7	3	19
12	2023/9/22	Obulo	Suriubu	3	5	6	5	19
総計				70	36	75	46	227

2) パブリックスピーキング発表会：

上述のパブリックスピーキング研修で選ばれた10人⁴の女性の代表者が、「農山漁村女性の役割と貢献」、「持続可能な農業とジェンダー平等」、「農山漁村女性リーダーの挑戦と成功」という3つからスピーチのトピックを選んで準備し、発表した。10月の発表会当日には、内部ジェンダー専門家によるミニ指導セッションを設け、発表者へのコーチングが行われた。日本国大使、東ティモール平等担当国務長官、エルメラ県知事も発表会に臨席する中、女性たちは堂々と自信を持って発表した。

なお、当初は審査し発表者の順位付けを行う計画であったが、代表に決まった全員が余念なくスピーチの準備をしていたことから、審査方式は取らず、平等担当国務長官にまとめて講評をもらう形を取った。平等担当国務長官の講評においては、社会で女性がもっとリーダーシップを発揮できるよう応援のメッセージが送られ、参加者は大いに勇気づけられた。

<参加者>

No	村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	FGメンバー		FGメンバー以外		合計
			女性	男性	女性	男性	
1	Batumanu	Batuu	2	0	2	3	7
2	Batumanu	Mutubau	1	0	6	0	7
3	Laubonu	Biabote	1	1	2	2	6
4	Laubonu	Sirui	0	1	1	0	2
5	Leimea Leten	Buibaru	1	0	1	6	8
6	Leimea Leten	Leulara	1	1	1	2	5
7	Leimea Leten	Orbeto	0	0	4	2	6

⁴ 各12農民グループから1名の女性代表者を選定したが、Sirui集落とLaku Ubu集落の農民グループの代表者2名は当日に手配した送迎車の手違いから発表会に参加することができなかった。よって、後日、各集落での定期振り返り会議の場で発表の機会を設けた。

8	Leimea Leten	Raebou	2	0	1	0	3
9	Leimea Leten	Raelia	3	2	2	7	14
10	Obulo	Biliubu	1	1	5	4	11
11	Obulo	Laku Ubu	0	0	1	1	2
12	Obulo	Suriubu	0	1	2	1	4
	総計		12	7	28	28	75

活動 2.5 修繕費の集金と管理に関する振り返り研修とフォローアップ指導

ファイナンスの知識のあるモニタリング・オフィサー、プロジェクト・オフィサー、フィールド・オフィサーが内部講師となり、農民グループの資金管理能力を高めるため、4回にわたり振り返り研修を実施した。農民グループによっては、文字や数字を書けるメンバーが数名しかおらず、メンバーでニーズや理解度が相当に異なるため、指導方法については個別対応を心掛けた。また、毎回振り返り研修の最後には、学びを深めたい点について聞き取りを行った。聞き取りの結果、資金管理だけでなく、グループ活動を更に発展させるため、ビジネス計画の立て方も学びたいとの要望があげられたことから、3回目からは、設備の維持管理のための資金管理という枠を超え、利益を生み出す野菜栽培をトピックに、基本的なビジネス計画について指導した。

なお、当初の予定では、およそ3ヶ月に一度振り返り研修を実施する予定であったが、モニタリング・オフィサーの採用が遅れたため、9月から12月にかけて毎月実施する運びとなった。

- 1回目振り返り研修とフォローアップ指導：

9月に実施した振り返り研修とフォローアップ指導では、透明性、金額／数字の書き方（百の位まで）、収入と支出、記帳の仕方、キャッシュカウントとリコンシリエーション（帳簿と手持ち現金の照合）の仕方について復習した。

<参加者>

No	日程	村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	FGメンバー		FGメンバー以外		合計
				女性	男性	女性	男性	
1	2023/9/18	Batumanu	Batuu	3	3	0	3	9
2	2023/9/21	Batumanu	Mutubau	2	5	3	1	11
3	2023/9/25	Laubonu	Biabote	9	1	4	0	14
4	2023/9/27	Laubonu	Sirui	2	2	2	1	7
5	2023/9/15	Leimea Leten	Buibaru	3	2	5	1	11
6	2023/9/12	Leimea Leten	Leulara	4	2	6	1	13
7	2023/9/13	Leimea Leten	Orbeto	5	0	3	0	8
8	2023/9/11	Leimea Leten	Raebou	6	5	1	0	12
9	2023/9/22	Leimea Leten	Raelia	6	3	3	8	20
10	2023/9/14	Obulo	Biliubu	2	5	0	1	8
11	2023/9/19	Obulo	Laku Ubu	3	5	4	1	13
12	2023/9/20	Obulo	Suriubu	3	4	4	0	11
	総計			48	37	35	17	137

- 2回目振り返り研修とフォローアップ指導：

10月には、1回目の研修よりも大きな金額／数字の書き方（千の位まで）、収入と支出、記帳の仕方、キャッシュカウントとリコンシリエーションの仕方について復習し、利益計算の仕方について新たに指導した。また、1回目での経験から、教材を新たに作成するなどして、読み書きのできない人でもわかりやすいように工夫した。

<参加者>

No	日程	村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	FGメンバー		FGメンバー以外		合計
				女性	男性	女性	男性	
1	2023/10/12	Batumanu	Batuu	3	5	0	8	16
2	2023/10/13	Batumanu	Mutubau	4	2	8	6	20
3	2023/10/26	Laubonu	Biabote	5	2	5	1	13
4	2023/10/9	Laubonu	Sirui	4	3	0	2	9

5	2023/10/16	Leimea Leten	Buibaru	5	2	7	1	15
6	2023/10/10	Leimea Leten	Leulara	7	3	5	1	16
7	2023/10/23	Leimea Leten	Orbeto	7	2	3	0	12
8	2023/10/24	Leimea Leten	Raebou	9	1	4	1	15
9	2023/10/17	Leimea Leten	Raelia	7	2	2	2	13
10	2023/10/27	Obulo	Biliubu	4	2	4	2	12
11	2023/10/11	Obulo	Laku Ubu	2	3	6	1	12
12	2023/10/25	Obulo	Suriubu	4	3	11	5	23
総計				61	30	55	30	176

● 3回目振り返り研修とフォローアップ指導：

11月には、より大きな金額／数字の書き方、収入と支出、記帳の仕方、キャッシュカウントとリコンシリエーションの仕方、利益計算の仕方を復習した。さらに、農民グループメンバーから提案を受けたビジネス計画の立て方（価値を高めるマーケティングの方法を含む）を新たに指導した。

<参加者>

No	日程	村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	FGメンバー		FGメンバー以外		合計
				女性	男性	女性	男性	
1	2023/11/21	Batumanu	Batuu	6	2	3	2	13
2	2023/11/13	Batumanu	Mutubau	3	4	2	3	12
3	2023/11/20	Laubonu	Biabote	3	2	5	1	11
4	2023/11/15	Laubonu	Sirui	4	4	0	2	10
5	2023/11/29	Leimea Leten	Buibaru	5	4	2	2	13
6	2023/11/30	Leimea Leten	Leulara	7	2	4	0	13
7	2023/11/24	Leimea Leten	Orbeto	8	2	2	0	12
8	2023/11/22	Leimea Leten	Raebou	7	2	2	5	16
9	2023/11/23	Leimea Leten	Raelia	7	3	0	2	12
10	2023/11/14	Obulo	Biliubu	4	4	1	4	13
11	2023/11/16	Obulo	Laku Ubu	4	4	8	1	17
12	2023/11/17	Obulo	Suriubu	5	2	11	2	20
総計				63	35	40	24	162

● 4回目振り返り研修とフォローアップ指導：

12月には、収入と支出の記帳の仕方、利益計算の仕方を復習した。さらに、市場のニーズや利益を考慮して植える野菜を決める方法、ビジネス計画の立て方、どのようにグループ活動を継続させるか、グループで維持管理費を貯める必要性などについて話し合った。

<参加者>

No	日程	村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	FGメンバー		FGメンバー以外		合計
				女性	男性	女性	男性	
1	2023/12/12	Batumanu	Batuu	3	5	0	5	13
2	2023/12/18	Batumanu	Mutubau	5	3	2	2	12
3	2023/12/21	Laubonu	Biabote	6	3	3	0	12
4	2023/12/12	Laubonu	Sirui	4	3	2	2	11
5	2023/12/20	Leimea Leten	Buibaru	4	2	3	2	11
6	2023/12/6	Leimea Leten	Leulara	10	3	6	2	21
7	2023/12/18	Leimea Leten	Orbeto	4	1	4	3	12
8	2023/12/19	Leimea Leten	Raebou	4	1	1	4	10
9	2023/12/20	Leimea Leten	Raelia	3	3	3	3	12
10	2023/12/4	Obulo	Biliubu	4	5	2	0	11
11	2023/12/4	Obulo	Laku Ubu	3	3	5	3	14

12	2023/12/5	Obulo	Suriubu	5	3	1	1	10
	総計			55	35	32	27	149

活動 2.6 事業終了後のフォローアップ計画策定の住民参加型ワークショップの開催

2 年次造成組対象の住民参加型ワークショップを、各 7 集落での行事の都合を考慮して、4 月から 5 月にかけて 5 集落、8 月から 9 月にかけて 2 集落において実施した。

同ワークショップは、造成した農業用水設備を永続的に利用しながら農業活動ができるように、災害リスクの軽減と気候変動への対応を主眼に、事業終了後も各集落で取り組むアクションプランを取り纏めることを目的としている。具体的には、以下の手法を使い参加者間で合意形成を図りアクションプランを策定した。

- ・災害リスクマップ、過去の災害分析、コミュニティで起こる自然災害についての問題分析
- ・意思決定に関するパイルソーティング（誰が重要な意思決定を行うか。例えば、近くで地滑りが起こった時、引っ越すかどうか、子どもを病院に連れて行くか行かないかなどの決定）
- ・脆弱性マトリクス（災害で一番脆弱性の高い生計手段を分析）
- ・インパクトチェーン（災害の種類ごとに、直接インパクト、間接インパクトを分析し、対策を話し合う）
- ・解決マトリクス（どのように災害の被害を軽減するか）
- ・ベン・ダイアグラム（コミュニティにおける関係者分析）

災害リスクとしては、地滑り、洪水、水源の枯渇、そして、長引く乾季の影響による食糧不足や栄養不良などがあげられた。それら課題への対応策として、アクションプランの中には、地滑り対策や水源保全のための植林、収入向上や栄養改善のための野菜栽培の継続、市場へのアクセスを確保するためのコミュニティ道路の整備などが含まれた。

<参加者>

No	日程	村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	FG メンバー		FG メンバー以外		合計
				女性	男性	女性	男性	
1	2023/5/9-11	Batumanu	Batuu	7	7	8	7	29
2	2023/08/30-9/1	Laubonu	Sirui	8	5	16	6	35
3	2023/4/26-28	Leimea Leten	Buibaru	5	3	15	22	45
4	2023/5/8-10	Leimea Leten	Leulara	12	6	7	17	42
5	2023/5/3-5	Leimea Leten	Raebou	14	9	7	11	41
6	2023/5/23-25	Obulo	Biliubu	1	3	27	13	44
7	2023/08/10-12	Obulo	Laku Ubu	5	6	14	13	38
	総計			52	39	94	89	274

活動 2.7 農民グループのネットワーク化の促進

3 年次では、農民グループのネットワーク化を進め、12 のグループ間で農業用設備の維持管理に関する情報共有のみならず、農業活動全般にわたり課題と情報を共有し相互にサポートできる体制づくりに取り組んだ。

1) グループ間の相互訪問：

10 月、11 月、1 月の 3 回に分け、12 集落からの参加者が順番に近隣の農民グループを訪問した。また、エルメラ県に隣接するアイレウ県からは、アメリカ国際開発庁 (USAID) の農業プログラム「Avansa プログラム」に参加し成功している野菜農家 1 名、野菜の仲買人 1 名をリソースパーソンとして招聘した。リソースパーソンからの農業活動へのアドバイスは農民グループにとって非常に有益で、グループメンバーのモチベーションをあげる機会ともなった。具体的には、栽培技術面では、堆肥のあげ方や野菜を植える間隔などに関する改善点のアドバイスをもらった。販売面では、雨季はディリで野菜の供給が足りなくなるため、暴風雨対策として雨季にはビニールハウスを利用しながら野菜を生産すれば、ディリで販売できる可能性があるというアドバイスを受けた。

リソースパーソンからのアドバイスも踏まえて、グループ間のネットワークの強化についてグループディスカッションを行ったところ、協力して仲買人に野菜を卸す、その際、同種類の野菜を植えて量を確保する、卸す野菜の種類を増やすために植える野菜をグループ間で調整する、各グループで収穫した野菜を集めてまとめて運搬するなど、野菜販売による収入創出を念頭とした様々な提案が積極的になされた。

<参加者>

・2023年10月3日

No	村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	FGメンバー		FGメンバー以外		合計
			女性	男性	女性	男性	
1	Batumanu	Batuu(受入れ)	2	4	0	0	6
2	Batumanu	Mutubau	3	3	3	3	12
3	Laubonu	Sirui	3	5	1	0	9
総計			8	12	4	3	27

・2023年10月4日

No	村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	FGメンバー		FGメンバー以外		合計
			女性	男性	女性	男性	
1	Leimea Leten	Buibaru(受入れ)	4	6	2	3	15
2	Leimea Leten	Leulara	4	4	3	3	14
3	Leimea Leten	Orbeto	2	0	7	1	10
総計			10	10	12	7	39

・2023年10月5日

No	村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	FGメンバー		FGメンバー以外		合計
			女性	男性	女性	男性	
1	Leimea Leten	Raebou(受入れ)	11	0	2	3	16
2	Leimea Leten	Raelia	5	3	3	2	13
総計			16	3	5	5	29

・2023年10月6日

No	村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	FGメンバー		FGメンバー以外		合計
			女性	男性	女性	男性	
1	Leimea Leten	Buibaru	3	5	8	10	26
2	Leimea Leten	Leulara(受入れ)	13	4	7	5	29
総計			16	9	15	15	55

・2023年11月8日

No	村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	FGメンバー		FGメンバー以外		合計
			女性	男性	女性	男性	
1	Batumanu	Batuu	4	2	2	5	13
2	Laubonu	Biabote	6	4	8	3	21
3	Batumanu	Mutubau(受入れ)	5	4	16	8	33
総計			15	10	26	16	67

・2023年11月9日

No	村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	FGメンバー		FGメンバー以外		合計
			女性	男性	女性	男性	
1	Obulo	Biliubu	3	3	0	9	15
2	Obulo	Laku Ubu	1	2	5	0	8
3	Obulo	Suriubu(受入れ)	5	6	5	5	21
総計			9	11	10	14	44

・2023年11月10日

No	村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	FGメンバー		FGメンバー以外		合計
			女性	男性	女性	男性	
1	Leimea Leten	Orbeto(受入れ)	7	0	9	1	17
2	Leimea Leten	Raebou	6	0	1	0	7
総計			13	0	10	1	24

・2024年1月11日

No	村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	FGメンバー		FGメンバー以外		合計
			女性	男性	女性	男性	
1	Laubonu	Biabote(受入れ)	3	1	9	6	19

2	Obulo	Suriubu	4	5	8	8	25
	総計		7	6	17	14	44

2) 農産物の販売イベント：

農民グループのネットワーク化の一環として、グループが共同で収穫した農産物を販売するイベントを上述の活動 2.4 のパブリックスピーキング発表会との合同でアッサベの市場で開催した。農民グループの活動をアッサベの一般市民に広く周知するとともに、政府関係者などに活動の成果を紹介する機会となった。

普段は別々に活動していることから協力して何かを行う機会が少ない農民グループにとり、グループ同士で農産物を共同で運搬したり販売したりする経験を通して学ぶことは多かった。同販売イベントでの野菜の売上は 580.75 ドルにのぼった。3 年次 1 年間の 12 農民グループの 1 ヶ月の平均売上が 888 ドルであったことを考慮すると大成功であったと言える。協力することで規模の経済が働き大きな実績に繋がることが実感でき、ネットワークを強化するモチベーションになった。また、当日は、アッサベの市場で野菜販売所を常設している店主や隣接するレテフォホ郡からアッサベまで野菜の買い付けに来ている仲買人なども来場し、野菜の販路拡大のきっかけ作りにもなった。

<参加者>上記活動 2.4 のパブリックスピーキング発表会と同じ。

(ウ) その他の活動

活動 3.1 郡、村落、集落村レベルの地方政府を対象とした事業開始に向けた理解促進活動

【1 年次、2 年次に実施済】

活動 3.2 定期振り返り会議

事業終了時の 3 年次では、アッサベとディリにて 2 回の事業終了時振り返り会議を開催した。

1) 1 回目振り返り会議(農民グループと集落)：

アッサベでは 1 月、各 12 集落にて振り返り会議を開催した。同振り返り会議では、各村落・集落リーダーを招聘し、農民グループメンバー、集落住民とともに、3 年間の事業の成果と課題について協議した。

成果としては、本事業で野菜の価値について再認識ができたこと、収穫と収入が増えたこと、野菜が栄養の改善にもつながることなどが挙げられた。また、成果を定着させるために、事業終了後も農業普及員や当団体によるモニタリングや追加研修で技術的なサポートを継続して欲しいといった要望も同時に挙げられた。資金投入は本事業ですするが、今後も年に 2 回程度同地に赴きフォローアップ指導をすることを検討する。

課題としては、畑の土壌改良のために大量の腐葉土を集める負担が大きいこと、野菜の病害虫の被害や家畜による被害、資金の透明性の欠如などが挙げられた。これらは 1 年次からの課題でもあり、事業終了後も定期的に会合を継続しグループ内の規定を順守すること、山羊や鶏などの家畜が畑を荒らした場合、今後は家畜の所有者にペナルティを課すことも検討することなどが対策として提案された。また、野菜栽培の継続の他、活動 2.6 の住民参加型ワークショップで計画した植林などを早急に行うことについて、同振り返り会議で再度、確認しあった。

<参加者>

No	日程	村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	FG メンバー		FG メンバー以外		合計
				女性	男性	女性	男性	
1	2024/1/19	Batumanu	Batuu	6	3	3	5	17
2	2024/1/25	Batumanu	Mutubau	6	2	5	1	14
3	2024/1/26	Laubonu	Biabote	5	2	6	7	20
4	2024/1/29	Laubonu	Sirui	5	6	4	12	27
5	2024/1/17	Leimea Leten	Buibu	5	4	6	6	21
6	2024/1/30	Leimea Leten	Leulara	11	5	3	3	22
7	2024/1/26	Leimea Leten	Orbeto	8	1	5	2	16
8	2024/1/24	Leimea Leten	Raebou	7	3	3	7	20
9	2024/1/15	Leimea Leten	Raelia	8	6	2	3	19
10	2024/1/16	Obulo	Biliubu	1	2	8	12	23

11	2024/1/23	Obulo	Laku Ubu	3	5	11	12	31
12	2024/1/18	Obulo	Suriubu	5	3	9	4	21
総計				70	42	65	74	251

2) 2回目振り返り会議(カウンターパートを含めた事業関係者) :

ディリでは2月、県農業局局長、アッサベ郡長、集落長や農民グループリーダーなど36人(男性32人、女性4人)がディリに会し、振り返り会議を開催した。同会議では、1回目のアッサベでの振り返り会議の結果を共有するとともに、各参加者で3年間での学びについて振り返った後、グループディスカッションで成果、課題、提言について話し合った。

成果としては、ジェンダー平等が促進された、農業インフラが整った、収入を得られるようになったなどが挙げられた。課題としては、透明性、農民グループ内でのメンバーとリーダー間の関係性の問題、アッサベ内では良質な野菜の種子の購入が困難なこと、活動へのメンバーの参加率が特に雨季に減る傾向にあることなどが挙げられた。その後、それぞれの課題の解決策について話し合った。解決策としては、農民グループメンバーの参加を働きかけるにあたっては、メンバー個々に具体的な仕事内容を明確にして提示するなどが挙げられた。

会議の最後に、県農業局、集落長たちが、事業終了後も農民グループの活動を必要に応じてサポートすることを参加者全員で確認した。

なお、政府職員や集落長が男性ばかりだったため、参加者のジェンダーに偏りができてしまった。今後、政府職員や集落からの代表者との会議を開催する際は、ジェンダーバランスに配慮し、集落の女性代表などにも参加してもらうことに留意する。

(3) 達成された成果

1) 3年次で達成された成果

(ア) 期待される成果1 :

農業用水設備を整備することで、農業活動に不可欠な水が得られるようになり、栽培面積が広がるとともに、対象農民グループの女性メンバーの水汲みの負担が軽減する。

● 成果1を測る指標

1.2 : 対象農民グループ全体で、野菜栽培可能面積(野菜の苗床面積)が25%増加する。

3年次の指標	達成状況
2年次造成組の7FGsで2年次終了時点より25%増加する。	<ul style="list-style-type: none"> 野菜栽培可能面積は2年次終了時点の787.5㎡から更に787.5㎡拡大し、100%の大幅増となった。 栽培面積が大幅に拡大できたことで、作付けする野菜の量も想定より増えており、栽培過程を適切に管理してゆけば、将来的に野菜の収量が大きく伸び、ひいては野菜販売による収入の更なる向上に繋がることが期待される。

1.3 : 対象農民グループの女性メンバー141人の水汲みに費やす時間が事業実施前より50%軽減する。

3年次の指標	達成状況
1年次、2年次造成組の12FGsの女性メンバーで50%軽減する。	<ul style="list-style-type: none"> 給水設備と点滴灌漑設備を整備したことにより、現在水汲みに費やす時間は全くなかった。

【成果1の達成度の総評】

● 野菜栽培面積の大幅な拡大 :

1年次造成組の5農民グループ、2年次造成組の7農民グループとともに、前年度の野菜栽培面積から25%の増加という当初の目標値に対して、大幅に野菜栽培可能面積を拡大できたことは特筆すべきである(1年次造成組で83%(562.5㎡)、2年次造成組で100%(787.5㎡)の拡大)。目標値についてはグループ共有農地のうち未耕作地の土壌の質や傾斜状態から判断し25%が妥当と判断していた。目標値を大きく上回る達成度となった背景に、農民グループメンバーのモチベーションの向上を挙げることができる。農民メンバーにとり、野菜栽培によって自家消費できる食糧が増えたという点以上に、収入創出に繋がったことが野菜栽培に取り組むモチベーションになってきた。これは、野菜販売による収入創出に成功しているグループの方がそうでないグループと比較してメンバーの活動への参加率が高い傾向にあることから伺える。農民メンバーは点滴灌漑を設置するには適さないとされるような未耕作地も労力を惜しまず開墾することで、野菜栽培用農地の大幅拡大

を可能とした。さらには、開墾しても点滴灌漑の設置が難しい場所には点滴灌漑に代わりスプリンクラーを設置し隔々までに水がいきわたるようにするなど、あらゆる手段を講じてきた。このような努力によって、目標値 25%を大きく上回る達成度となった。

野菜栽培面積の大幅な拡大は、結果として、より多くの野菜の種類を試験的に栽培することも可能にした。本事業では3年次終わりまでに、育成具合がよく市場価値も高い野菜の種類を選定するため、1年次から幾種類もの野菜を試験的に栽培してきた。1年次では15種類の野菜であったものを、2年次では栽培面積が拡大したこともあり25種類にまで増やして試験栽培することができた。また、3年次では1年次と2年次のトライ＆エラーの結果を踏まえ18種類に絞り込んだ⁵。土地にあった野菜を見極めるには、どの種類の野菜も一定の量を作付ける必要があり、当初の25%拡大では、ここまで多くの野菜の種類を投入することは難しかった。このように、野菜の栽培面積の大幅な拡大は、野菜の収量や販売量の増加に繋がることを示唆するだけでなく、野菜の種類を選定する過程においても大いに貢献し、農地の質や市場の需要により合致した野菜を厳選することを可能にした。

● **女性農民の水汲み水やり労働からの解放：**

農業用水設備の設置によって、女性農民に負担が偏りがちな水汲みや水やり労働に費やす時間を、当初目標の50%削減に対して3年次終了時点でゼロにすることができた。農業以外にも育児、家事など家庭においても多くの労働を担っている女性農民にとり、水汲みや水やり労働(1日の労働時間13.75時間のうち平均3時間)がゼロになったことは、全体の労働負担の軽減に確実に繋がることを意味し、その意義は大きい。また、水汲みや水やりに費やす時間が全くなくなったことは、本事業で建造した貯水タンクや敷設した点滴灌漑設備が農民グループによって適切に維持管理されていることも示唆している。事業期間中には、部品の破損や盗難などの問題が発生したが、放置せずに解決に向けて農民グループ内、そして集落長と話し合い、対応してきたことで、農業用水設備が利用できない事態にはならなかった。建造後も設備を維持管理する努力がされてこそ水汲みや水やり労働時間をゼロのままにすることができたと言える。

● **波及的成果 - 収入創出：**

上述の(1)プロジェクト目標の達成度で触れた通り、本事業では、通年で安定して野菜栽培ができるところまでをその事業範囲とし、収入向上までは含めていない。よって、収穫した野菜については、当初は野菜の販売より食の安全保障の観点から自家消費を奨励することにより力点を置いていた。他方、自家消費以外の余剰野菜を学校給食用として地元市場で一部販売するようになり、収入創出の有無が農民グループの活動へのモチベーションを左右することが明らかとなったことで、自主的に行われていた農民グループの野菜販売を、事業においても後押しする活動(例：相互訪問や農産物の販売イベント)を組み入れる工夫をしてきた。3年次はより販売活動を支援したことで、ほとんどの農民グループで定期的に収入を得られるようになり、全12グループの3年次の月平均売上は888ドル⁶にのぼった。2年次の12ヶ月間の月平均の売上は320.58ドルであり、大きく売り上げを伸ばしていることが分かる。

将来的には域内に留まらず域外のより大きな市場を目指すことも期待できる。選定した18種類の野菜のうち、特に白菜、キャベツ、レッドキャベツ、レタス、カリフラワー、ブロッコリー、ズッキーニについては高地の栽培特性を活かせ、かつディリなどの域外の大きな市場で価値が高い。今後これらの野菜栽培に力を入れることが農民の収入向上により有効であると考えられる。

(イ)期待される成果2

5

- ・1年次の野菜15種類：からし菜、ロングビーンズ、トマト、空心菜、キャベツ、チンゲン菜、ニガウリ、ブロッコリー、レタス、トウガラシ、ナス、玉ねぎ、スイカ、キュウリ、カリフラワー
- ・2年次の野菜25種類：ロングビーンズ、トマト、キュウリ、グリーンビーンズ、ナス、玉ねぎ、空心菜、トウガラシ、レタス、ブロッコリー、ニガウリ、パプリカ、にんにく、高菜、スイバ、ホウレンソウ、セロリ、オクラ、スイートコーン、ビーンズ、ズッキーニ、白菜、パパイア、レッドキャベツ、カリフラワー
- ・3年次の野菜18種類：高菜、トマト、ナス、パプリカ、レタス、からし菜、ズッキーニ、ブロッコリー、チンゲン菜、ロングビーンズ、白菜、キャベツ、レッドキャベツ、ビーンズ、カリフラワー、ホウレンソウ、ニガウリ、トウガラシ

⁶ 3年次の月ごとの売上：

3月\$319.00/4月\$515.75/5月\$710.00/6月\$687.50/7月\$670.00/8月\$634.50/9月\$1,142.50/10月\$1,588.50/11月\$1,650.00/12月\$1,460.00/1月\$785.00/2月\$493.50

整備された農業用水設備を維持管理できるようにコミュニティと女性メンバーを含む農民グループの能力が強化される。

●**成果 2 を測る指標**

2.1 : 各回の維持管理研修及び定例会合への各設備維持管理委員会 (FMC) メンバーの参加率が 85%以上となる。

3 年次の指標	達成状況																																										
対象 12 集落の FMC メンバーの参加率が 85%以上となる。	<p>・ 1 年次での FMC メンバーの参加率の低さから、2 年次から、FMC メンバーが参加できない場合は、各農民グループ内の FMC メンバー 6 名に参加者を固定するのではなく、同じ農民グループ内の他のメンバーの代理参加も認めることとした。よって、参加者数については 2 グループが 1 回ずつ 6 名以下のメンバーの参加となった以外は、常に 6 名以上の参加が認められ、99%の参加率となった。しかしながら、FMC メンバーに限った場合、各 12 集落の FMC メンバーの平均参加率は 52%と目標値を下回った。</p>																																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>村落 (Suco)</th> <th>集落 (Aldeia)</th> <th>農民グループメンバーの平均参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Batumanu</td><td>Batuu</td><td>9.75</td></tr> <tr><td>Batumanu</td><td>Mutubau</td><td>7.25</td></tr> <tr><td>Laubonu</td><td>Biabote</td><td>11.25</td></tr> <tr><td>Laubonu</td><td>Sirui</td><td>6.50</td></tr> <tr><td>Leimea Leten</td><td>Buibaru</td><td>7.75</td></tr> <tr><td>Leimea Leten</td><td>Leulara</td><td>10.00</td></tr> <tr><td>Leimea Leten</td><td>Orbeto</td><td>8.00</td></tr> <tr><td>Leimea Leten</td><td>Raebou</td><td>11.75</td></tr> <tr><td>Leimea Leten</td><td>Raelia</td><td>11.25</td></tr> <tr><td>Obulo</td><td>Biliubu</td><td>8.50</td></tr> <tr><td>Obulo</td><td>Laku Ubu</td><td>9.25</td></tr> <tr><td>Obulo</td><td>Suriubu</td><td>9.75</td></tr> <tr><td colspan="2">全体平均</td><td>9.25</td></tr> </tbody> </table>	村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	農民グループメンバーの平均参加人数	Batumanu	Batuu	9.75	Batumanu	Mutubau	7.25	Laubonu	Biabote	11.25	Laubonu	Sirui	6.50	Leimea Leten	Buibaru	7.75	Leimea Leten	Leulara	10.00	Leimea Leten	Orbeto	8.00	Leimea Leten	Raebou	11.75	Leimea Leten	Raelia	11.25	Obulo	Biliubu	8.50	Obulo	Laku Ubu	9.25	Obulo	Suriubu	9.75	全体平均		9.25
村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	農民グループメンバーの平均参加人数																																									
Batumanu	Batuu	9.75																																									
Batumanu	Mutubau	7.25																																									
Laubonu	Biabote	11.25																																									
Laubonu	Sirui	6.50																																									
Leimea Leten	Buibaru	7.75																																									
Leimea Leten	Leulara	10.00																																									
Leimea Leten	Orbeto	8.00																																									
Leimea Leten	Raebou	11.75																																									
Leimea Leten	Raelia	11.25																																									
Obulo	Biliubu	8.50																																									
Obulo	Laku Ubu	9.25																																									
Obulo	Suriubu	9.75																																									
全体平均		9.25																																									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>村落 (Suco)</th> <th>集落 (Aldeia)</th> <th>FMC メンバーの平均参加率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Batumanu</td><td>Batuu</td><td>50%</td></tr> <tr><td>Batumanu</td><td>Mutubau</td><td>42%</td></tr> <tr><td>Laubonu</td><td>Biabote</td><td>75%</td></tr> <tr><td>Laubonu</td><td>Sirui</td><td>33%</td></tr> <tr><td>Leimea Leten</td><td>Buibaru</td><td>33%</td></tr> <tr><td>Leimea Leten</td><td>Leulara</td><td>58%</td></tr> <tr><td>Leimea Leten</td><td>Orbeto</td><td>46%</td></tr> <tr><td>Leimea Leten</td><td>Raebou</td><td>67%</td></tr> <tr><td>Leimea Leten</td><td>Raelia</td><td>67%</td></tr> <tr><td>Obulo</td><td>Biliubu</td><td>38%</td></tr> <tr><td>Obulo</td><td>Laku Ubu</td><td>50%</td></tr> <tr><td>Obulo</td><td>Suriubu</td><td>63%</td></tr> <tr><td colspan="2">全体平均</td><td>52%</td></tr> </tbody> </table>	村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	FMC メンバーの平均参加率	Batumanu	Batuu	50%	Batumanu	Mutubau	42%	Laubonu	Biabote	75%	Laubonu	Sirui	33%	Leimea Leten	Buibaru	33%	Leimea Leten	Leulara	58%	Leimea Leten	Orbeto	46%	Leimea Leten	Raebou	67%	Leimea Leten	Raelia	67%	Obulo	Biliubu	38%	Obulo	Laku Ubu	50%	Obulo	Suriubu	63%	全体平均		52%
村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	FMC メンバーの平均参加率																																									
Batumanu	Batuu	50%																																									
Batumanu	Mutubau	42%																																									
Laubonu	Biabote	75%																																									
Laubonu	Sirui	33%																																									
Leimea Leten	Buibaru	33%																																									
Leimea Leten	Leulara	58%																																									
Leimea Leten	Orbeto	46%																																									
Leimea Leten	Raebou	67%																																									
Leimea Leten	Raelia	67%																																									
Obulo	Biliubu	38%																																									
Obulo	Laku Ubu	50%																																									
Obulo	Suriubu	63%																																									
全体平均		52%																																									
	<p>・ FMC メンバーが会合や研修に参加しない理由を調べたところ、以下のような背景が挙げられる。</p>																																										

	<ul style="list-style-type: none"> - 他の生計活動（家畜の世話やタイス織など）を優先したため。 - 個人的な家庭の事情（夫が病気になった、家の建て替えのためなど）。 - グループリーダーから会合や研修の情報が届かなかった。 <p>・今後の対応：</p> <p>1年次からの課題であったFMCメンバーの参加率の低迷については、同じ農民グループ内の他のメンバーの代理参加も認めることで対応してきた。「成果2の総評」で詳述するが、この方法は広くメンバー全員が当事者として主体的に維持管理に関わるという姿勢を育む点で有効でもあり、事業終了後は、FMCメンバーを輪番制にするなど、全農民グループメンバーで関わるやり方を推奨してゆく。</p>
--	--

2.3：フォローアップ計画策定のワークショップへの参加者の50%が女性である。

3年次の指標	達成状況
2年次造成組の7集落で女性の参加者が参加者全体の50%。	・女性の参加は53%であった。

2.4：対象12集落でフォローアップ計画が策定される。

3年次の指標	達成状況
2年次造成組の7集落でフォローアップ計画が策定される。	・7集落で、事業終了後も地域で災害リスクを軽減し農業用水設備を長期にわたり利用してゆくための計画が策定された。

2.5：設備維持管理委員会の定例会合の場等で提案したアクションプランの70%が3年次終了時までに実行に移されるようになる。

・3年次目標値：アクションプランの70%が実行される。

3年次の指標	達成状況
アクションプランの70%が実行される。	<ul style="list-style-type: none"> ・12集落で、100%実施された。 ・提案されたアクションプランの実行は、地域の持続可能な農業活動に資することが期待される。

2.6：定例会合等の意思決定の場に参加する女性の維持管理委員会メンバーおよび他の農民グループの女性メンバーの50%以上が自分の意見を発言できるようになる。

3年次の指標	達成状況
12グループの女性参加者の50%以上。	<ul style="list-style-type: none"> ・参加の度合いを5段階(1.参加が認められる、2.参加する、3.発言する、4.発言を尊重される、5.意思決定に参加する)に分け、3年次終了時でどの段階にいるかを調査した。3年次終了時、自分の意見を発言できるようになるという3番目のステージ以上の人は64%となり(3~4番目のステージ50%、5番目のステージ14%)、目標の50%以上を達成した。 ・ベースラインでは、82%の女性が会合に出席するだけの2番目以下のステージで、18%の女性が会合で発言する3番目のステージであったのが、2年次終了時の1年次組の5グループで、2番目のステージ以下は57%、3番目のステージ以上が42%と上昇し、3年次終了時点では12グループで、64%の女性がステージ3以上となり年次を経るごとに達成度が上がってきた。女性が会合で積極的に発言し、意思決定

に参加できるように、働きかけを継続した結果、成果として結実したことが分かる。

【成果2の達成度の総評】

● 農民グループメンバーの能力強化

事業期間中には様々な問題が発生したが、農業用水設備は常に稼働できる状態にあった。これは、保守修繕研修や規定の策定のプロセスを経て、農民グループメンバー一人一人の技術や知識面での能力が強化されたことを証左しており、また、定例会合などで提案されたアクションプランは全て実際に実行に移されたことから、設備の維持や改善に向けた具体的な取り組みが進行した結果と言える。

さらに、農業用水設備が常に稼働できた背景として、一人一人の農民グループメンバーの働きを挙げることができる。FMCメンバーが積極的でない場合であっても、問題を放置することなく、農民グループ全体でプロジェクトチームや集落長などコミュニティからの助けを得ながら、なんらかの対策をとってきた。定例会合へのFMCメンバーの参加率については想定を大きく下回る結果となったが、一方で、2年次以降、FMCメンバー以外の農民グループメンバーの定例会合への代理参加を認めたことで、農業用水設備の維持管理はFMCメンバーに任せて終わりではなく、広くメンバー全員が当事者として主体的に維持管理に関わるという姿勢が育まれたことが推察される。

● 女性の参画とリーダーシップ強化

上述の(1)プロジェクト目標の達成度で触れた通り、本事業ではジェンダー平等を促進する観点から、農業及び家庭内において当然と捉えられがちな男女の役割分担や力関係について男女の意識と行動の変革を促すとともに、女性農民メンバーのリーダーシップの醸成を図ってきた。リーダーシップ醸成を後押しするため、グループ活動において女性メンバーの比率を一定以上にすべくクォータ制を取り入れ、また、農民グループリーダーや集落長、村落長などのコミュニティのリーダーにクォータ制の意義について理解を促進した。その結果、3年次終了時に開催したフォローアップ計画策定のワークショップでは、女性の参加が53%と、2年次での同様のワークショップでの54%に続き、2年間続けて女性の参加者が半数以上を占めた。コミュニティにおいて、重要な会合への女性の参加について自然と受け入れている姿勢が見受けられる。さらに、メンバー間での会合や研修への女性の参加率だけを見ると、女性の参加が60%と男性の40%を大きく上回った。

また、単に参加を促すだけでなく、参加の結果として様々な話し合いや決定の場において、女性が自らの意見を自信を持って表明できるよう、グループディスカッションでは、男女別々のグループで話し合う措置を取るなど女性が発言しやすい環境を作ったり、パブリックスピーキング研修や発表会を通して女性に経験を積む機会を提供した。3年次終了時には、女性メンバーの64%以上が自分の意見を発言できるようになり、2年次終了時よりその達成度は上回っていることから、女性のリーダーシップ醸成のための様々な取り組みが成果として結実していることが伺える。

さらに、成果が現れたのには、男性メンバーの意識と行動の変化が大きな役割を果たしていることが挙げられる。当初は女性メンバーだけの参加を想定していたパブリックスピーキング研修では1年次から男性メンバーの希望で男性も女性と一緒に参加してきた。その結果、女性の公の場での発言や、意思決定の場に女性が参加することへの男性側の理解が深まる効果となったことは、モニタリング時の男性メンバーへのインタビューから確認できる。3年次に改訂した設備管理委員会の規定においては、女性の参加を促す取り決めが明確に含まれるようになったが、これは、主に男性メンバーが主導してのことであった。これらの事例は、ジェンダー平等や女性の参画の促進には、男性の巻き込みが重要であることを示唆している。

2) 「持続可能な開発目標(SDGs)」に対する成果

SDGs の下記の目標およびターゲットに寄与する成果を発現できた。

成果 1 (農業用水設備を整備することで、水へのアクセスが向上する。)においては、

目標 2 : 飢餓を終わらせ、食糧安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。

2.4 2030 年までに、生産性を向上させ、生産量を増やし、生態系を維持し、気候変動や極端な気象現象、干ばつ、洪水およびその他の災害に対する適応能力を向上させ、漸進的に土地と土壌の質を改善させるような、持続可能な食糧生産システムを確保し、強靱 (レジリエント) な農業を実践する。

成果 2 (整備された農業用水設備を維持管理できるように女性メンバーを含む農民グループの能力が強化される。)においては、

目標 5 : ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女児の能力強化を行う。

5.1 あらゆる場所におけるすべての女性および女児に対するあらゆる形態の差別を撤廃する。

5.5 政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画および平等なリーダーシップの機会を確保する。

当該目標	当該目標に寄与した成果
目標 2/ターゲット 2.4	<ul style="list-style-type: none"> ・乾季でも野菜の安定的な栽培が可能となるように、12 農民グループの共同農地に農業用水設備を設置するとともに、設備の維持管理研修を行い、野菜を通年で栽培できる環境を整えた。3 年次の雨季の到来が例年より 1 ヶ月から 1 ヶ月半ほど遅れたが、全ての水源が枯渇することなく、3 年次終了時点で、12 農民グループにおいては通年で野菜栽培を実践していることが確認できた。 ・通年栽培により野菜の収量の増加が図れ、また、主に穀物類に限られていた農業生産に野菜が加わったことは、食糧の安全保障の強化にもなった。 ・長期的には、啓発を行い、炭水化物に偏りがちな対象地域の食習慣に野菜のもつ栄養素が加味されることで、栄養改善に繋がることが期待される。 ・12 農民グループ対象に取水・土壌管理研修を継続的にを行い、鶏糞や腐葉土、コンポストを利用して農地の土壌改良に積極的に取り組んだ。 ・化学肥料とは異なり費用も安価で土壌にも負荷をかけない有機肥料や有機農薬を利用する有機農業を採り入れることで、持続可能な農業の促進に寄与した。
目標 5/ターゲット 5.1 および 5.5	<ul style="list-style-type: none"> ・農業用水設備の維持管理委員会のメンバーの比率を両ジェンダーに割当てクォータ制を実践し、対象コミュニティにおけるジェンダー平等の促進に寄与した。 ・維持管理委員会の規定の策定にあたっては、ジェンダー分析ワークショップを行い、ジェンダー平等の視点を規定に反映できた。 ・公の会合などの場で意見を発言できるように女性農民メンバーを対象にパブリックスピーキング研修を行うとともに、設備維持管理委員会の定例会合の場への女性メンバーの積極的な参加を促すことで、女性の意思決定の場への参画とリーダーシップを発揮する機会の確保の面で寄与した。 ・研修やワークショップや会合でより多くの女性の参加を促し続け、また農業活動や家庭内での男女間の公平な役割分担や女性の意思決定への参加について周囲の男性を巻き込み男性の理解が進んだ結果、メンバー間では、女性の参加が 60%と、男性の 40%を上回った。女性の参画とリーダーシップの醸成の面で寄与した。

3) 総合評価：DAC5 項目⁷及びジェンダー配慮視点からの検証

【妥当性(事業実施の妥当性)】

東ティモールの国造りの基本となる「戦略開発計画 (SDP: Strategic Development Plan (2011~2030))」では、貧困削減が最重要課題として謳われ、より詳細には「食糧安全保障の向上、農村部の貧困削減、環境・自然環境保全、農業・畜産業・水産業において自給的レベルから商業レベルへの移行」が掲げられている。また、乾季に農地が有効に利用されずに、食糧不足に陥る事態を避けるためにも、灌漑設備を整備し農地を拡大することや、付加価値の高い果実や野菜を生産し市場に繋ぐための行動計画が挙げられている。

貧困層の多く暮らす農村地域の生業状況の改善に向け、野菜を新たな生業手段として採り入れ、年間を通して農業活動が行えることを目指した本事業は、以下の点において、国家戦略である上記 SDP に沿った取り組みであった。

- ・点滴灌漑システムを含めた農業用水設備を整備したことで、雨季の天水に頼った穀物中心の生産以外に、市場価値の高い野菜を通年で栽培することができるようになり、生業手段を多様化することができた。
- ・事業終了年次の3年次までには、12の全農民グループが自家消費分を除いた野菜を地元の市場や学校給食の食材として販売することに取り組むようになり、新たに収入を創出することにも成功した。3年次で計1,563.25ドルの売り上げとなった学校給食への参加については、地元で食材を調達するという学校給食の方針にも合致した取り組みとなった。

東ティモール農林水産省は今まで灌漑システムが有効に利用されてこなかったことに言及している⁸が、本事業では、農業用水設備の整備後、長期間にわたり有効に利用されるように、設備の維持管理に関する規約の策定を支援し、また研修を通して維持管理にかかる関係者の能力強化も行った。

また、点滴灌漑などの新しい技術や、野菜栽培の技術を学んで収穫量を増やしたい、現金収入の機会を増やしたいという裨益者のニーズに応えた事業であったことは、事業終了後の農民グループメンバーへの聞き取り調査で98.75%が今後も農民グループまたは個人で野菜栽培を続けたいと答えていることから明らかである。

以上から、本事業は国家戦略とも合致し、設備の維持管理にかかる将来的な不安を取り除くことにも注力し、そして裨益者のニーズにも即しており、事業実施は妥当であったと判断できる。

【有効性(目標達成度)】

上記、(1)プロジェクト目標の達成度と(3)達成された成果の【成果1の達成度の総評】及び【成果2の達成度】を参照のこと。

【インパクト】

事業がもたらした上位目標(対象地域の生業状況が改善する)レベルへの正・負の間接的効果や波及効果については、強い正の効果が認められた。とりわけ、事業期間中に、農民グループのほとんどで、野菜販売による定期的な収入を得られるに至ったことは、事業期間中には想定していなかった予期せぬ正の効果であった。事業終了時に農民グループメンバー80人を対象に行った聞き取り調査では、一人平均週に10.94ドルの収入を野菜販売から得ていることが分かり、野菜以外の収入は一人週に15.44ドルであることから、重要な副収入になっていると言える。また、穀物類だけでなく、野菜栽培を農業活動に取り入れたことで、長期的には対象地域の栄養改善に資すると言え、摂取作物の多様化は正の波及効果となった。

【効率性】

「効率性」については、計画と実績の比較から分析する。活動の実施にあたっては、ほとんどの活動は計画通りに実施され3年間ですることができた。また、様々な制約の中、人的、資金的に追加投入をすることなく、調整と工夫を絶えず試み、タイムリーに活動を実施してきた。例えば、3年次でのパブリックスピーキング振り返り研修では、スケジュールの都合で内部ジェンダー専門家の投入ができなかった際に、スピーキング発表会の当日に同人による指導とコーチングの時間を設け、さら

⁷ DAC 評価 5 項目：経済協力開発機構／開発援助委員会 (OECD-DAC) による国際的な ODA 評価の視点。妥当性、有効性、インパクト、効率性、持続性が 5 項目にあたる。

⁸ Ministry of Agriculture and Fisheries “MAF-DP Harmonization Meeting Minutes”

に後日のフォローアップ指導を実施するといった代替手段を講じた。このような臨機応変な調整と工夫で事業の質を落とさずにタイムリーな実施ができた。一方で、事業期間を通して直接事業費の予算執行率が86%であったことから、費用投入効果の面では検証の余地を残した。

【持続性】

下記、「(4) 持続発展性」を参照のこと。

【ジェンダー配慮】

CAREでは、すべての事業でジェンダー主流化を目指し、東ティモールにおいては、重要優先領域として女性の経済的エンパワメント（WEE：Women's Economic Empowerment）と女性の声の強化（Women's Voice）を掲げている。本事業はこれら2つの優先領域を内包し、活動を通してジェンダー平等と女性のエンパワメントが促進されるように取り組んできた。事業の成果においては、グループ活動への女性の積極的参加を促すため、女性メンバーの発言力強化とリーダーシップ醸成に取り組み、農民グループのみならずグループが属するコミュニティでのジェンダー平等の主流化を目指した。また、事業開始前には、プロジェクトスタッフに対して内部でジェンダー研修を行うとともに、事業開始時や定期振り返りの場を利用して、受益者を含めた事業関係者に、性的搾取・虐待・ハラスメントからの保護（PSEAH：Protection from Sexual Exploitation, Abuse and Harassment）の徹底とジェンダーに基づく暴力（GBV）の予防と啓発活動を行ってきた。よって、十分なジェンダー配慮がされたと判断する。

4) 残された課題と対応

● 農民個人農地における通年野菜栽培の実現

農民グループの共有農地においては、農業用水へのアクセスが改善し、点滴灌漑設備を利用し、通年の野菜栽培が可能となった。一方で、個々の農民の農地については共有農地と同様の通年栽培ができるまでには至っていない。昨今の気候変動の影響で乾季が長引く傾向にあるが、共有農地では農業用水へのアクセスが整備されたことで長引く乾季の影響は抑えられ、年間を通して農業生産を行えるようになった。現状、個人農地については、雨季のみ穀物や豆類を栽培している農民がほとんどで、乾季が長引くと食糧不足が深刻化することも懸念される。広く個人農地にも農業用水へのアクセスを可能とする対応が求められる。個人農地への農業用水のアクセスは技術的には容易に対応でき、貯水タンクから個々の農地に水を引くためのパイプや点滴灌漑用のホースなどの購入費用も決して高額ではない。しかしながら、世帯で貯蓄する習慣のない農民にとっては、まとまった金額となる。事業終了後も共有農地で収穫した野菜を販売することで継続的に収入を得ることができても、まとまった貯蓄になるまでには時間もかかる。事業終了後の定期的なフォローアップ指導では、個人の貯蓄について指導するとともに、既存のマイクロファイナンス組織に農民を繋げるなど、農民個人が金融資本にアクセスできるように助言してゆく。

● 自家消費用としての固定種の活用

野菜の種子には固定種と交配種（ハイブリット）の2種がある。固定種は伝統的な野菜の種子で種を採取して繰り返し植えることができることからコストがかからず、また、栄養価が高く、その土地の気候風土に適しているという利点がある。一方で、形がそろわない、栽培に手間がかかるなど不利な点もある。交配種は種子を毎回購入しなければならないためコストはかかるが、病害に耐性があり栽培しやすい、大きく育ち味が良く収量も多いなどの利点があり、販売用として大量に生産するには適しているとも言える。本事業では栽培しやすく収量も多いという観点から交配種を農民グループに提供してきた。事業終了後は、農民自らが野菜の販売収益から次期栽培用の種子を購入してゆくことが期待されているが、固定種を導入することで種子の購入負担を軽減することも可能である。固定種は販売用として扱うには難しいが、種子を新たに購入するコストがかからないため、自家消費用として継続して植えるのに適している。販売用には交配種、自家消費用に固定種といったように、それぞれの特性を理解し、自家消費用と販売用にバランスよく種子を取り入れてゆくことを事業終了後のフォローアップ指導では助言してゆく。

	<ul style="list-style-type: none"> ● 有機農業の定着 有機農業は環境に優しく費用も抑えられることから、持続可能な農業の実現のためには不可欠である。しかし、有機農業の重要性を認識し、腐葉土を利用するなどの土壌の改良に積極的に取り組むメンバーがいる一方で、腐葉土を山中から取ってきたり、有機肥料を準備したりという作業を負担に感じそれらの作業に参加しないメンバーも少なからずいた。また、病虫害対策として、有機農業を作って、予防や病虫害発生初期の対策を徹底的に行うことが難しいグループも確認された。事業終了後の定期的なフォローアップでは、技術的な指導に留まらず、手間はかかるが持続可能な農業となり長期的には利することについて事例を示しながらあらためて伝えてゆく。 ● 農民グループ内の問題 事業期間を通して、グループ内での不公平感や不信感があり、活動に積極的に参加しないメンバーの存在が課題となってきた。最終年次の3年次では、メンバーとして登録しているだけで活動に参加しないメンバーの存在やグループリーダーのリーダーシップの欠如といった問題を抜本的に解決するため、メンバーの再編を大々的に行い年々増える傾向にあったメンバー数を233人にまで絞り込んだ。また、野菜の販売からメンバーが直接収入を得られていることが、メンバー同士の不和が少なく活動がうまく回っているグループの特徴として認められることから、積極的に参加したメンバーが野菜栽培を通して得られる利益を実感できるような利益分配の仕組みを作ることに注力した。いくつかのやり方を試す中、グループメンバーで管理する土地を区分し、それぞれ担当を決めて個人で担当区分の野菜の世話をし、その売上金も自分の収入にするやり方にしたグループでは活動がまわっていることから、利益配分のやり方として他のグループにも推奨してゆく。メンバー間の不和が問題の背景にある場合、グループ内でいくら話し合いを重ねてもなかなか解決には至らなかった。一方で、第三者的に集落長が話し合いの場を仲介することで、解決の糸口を見出してきたことから、事業終了後も集落長による介入を仰ぐことをグループには推奨してゆく。これら問題解決に向けた対応方法が今後も継続してうまく機能してゆくかは、事業終了後の定期的なフォローアップで見極める。
<p>(4) 持続 発展 性</p>	<p>1) 収穫した野菜の販売 保守修繕に必要な知識や技術、修繕費の資金管理、定例会合での問題解決等、造成した農業用水設備を維持管理できるように、農民グループを対象に様々な能力強化研修を実施してきた。これらに加え、栽培した野菜を自発的に販売し収入に繋げる農民グループが事業の初年次から確認され、3年次までに12 農民グループ全てが、収穫した野菜を地元の市場、学校給食用、地元住民などに販売して収入を得て、将来の設備維持管理や活動の継続のためにグループで貯蓄したり、メンバー個人の収入にすることができた。事業終了後も農業活動を継続してゆくには収入創出は不可欠である。このため、3年次では、事業終了後を見据え、将来、農民グループがより大きな市場を開拓し収入が増やせるように、市場価値の高い野菜の種類を厳選し、野菜販売イベントを通して域内域外の市場関係者に広くアピールする機会を設けた。さらに、農業用水設備を維持管理し種子を継続的に購入し次期農業活動に備えるため収支の管理についても注力して指導した。3年次終了時までには、全農民グループで野菜の栽培から販売、そして収入の配分までの一連のサイクルが作れ、活動の持続可能性を高めることができた。</p> <p>2) 有機農業の定着 農業省の方針でもあり、環境にも配慮し、有機農業の技術指導に力を入れた。事業に参加する以前は、農民は化学肥料や農薬を使用していた。有機農業については全くの未経験であったが、研修で有機肥料や有機農薬の作り方や、コンポストや腐葉土を利用しながら土壌を改良してゆく方法、施肥や有機農薬の使い方などについて農民たちは3年間を通して学ぶことができた。環境に配慮した農業技術を、今後は共有農地のみならず各個人の農地でも実践してゆくことが期待される。残念ながら、上述の課題においても触れた通り、農民の中には有機農業の作業負担を厭う者もいる。しかし、有機農業は、作業負担を上回る利点があり、環境への負荷が少なく、土壌の質を改善することができるため、長期的に見て収量が低下することがなく、持続可能な農業生産を実現することができる。さらに、現金収入の少ない農民にとっての直接的な利点としては、化学肥料や農薬を購入する必要がなくなるため、より持続可能である。事業終了後のフォローアップでは長期的な利点についてあらためて農民の理解を促進し有機農業の定着を図る。</p> <p>3) コミュニティ側の参加意識</p>

本事業では、農民グループだけでなく地域住民全体の参加意識の醸成が農業用水設備の持続的な有効利用には不可欠であるとの考えに立脚し、コミュニティ側関係者の参加と協力を引き出すために、地域住民にも裨益が及ぶように取り組んできた。その取り組みの一つが、生活用水として貯水タンクの水を地域住民に開放することであり、定例会合の場を利用した生活に関する様々な情報の発信であった。3年次でも、定例会合を生活向上に関する情報の発信と共有、そしてジェンダー平等が生活の向上にも繋がることの啓発の場として、地域住民の参加を促した。定例会合への地域住民の参加の割合は2年次の51%から3年次では64%と年次を追うごとに上がっており参加意識の醸成に寄与していることがうかがえる。また、3年次は雨季の到来が遅れたこともあり、地域住民から水源保全にもっと力を入れたいとの意見が出された。これを受け、活動2.6「事業終了後のフォローアップ計画策定の住民参加型ワークショップ」で策定したアクションプランに、木の伐採を禁止することや植林計画を含める集落もあった。水源保全は農業用水設備を長期にわたり利用するには必要な措置であり、地域全体で協力して水源の保全に取り組む姿勢は、コミュニティの参加意識の醸成の現れと言える。農業用水設備の維持管理はコミュニティの協力無しには成しえず、この3年間で維持管理のための基盤を築くことができた。

完了報告書記載日：2024年5月9日

【参考資料：別紙】

① 受益者の声

事業完了時の写真

エルメラ県アッサベ郡農業用水改善事業 (3年次)
公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン



住民参加型ワークショップの様子



大きく成長した野菜を収穫する女性



研修で有機液体肥料を作るメンバーたち



農民グループの相互訪問の様子



畑を耕す女性



女性リーダーのスピーチ発表

名前	Calisto de Deus
農民グループ名	Bui Aci
集落名 (Aldeia)	Biabote
村落名 (Suku)	Laubonu
性別・年齢	男性・50歳
インタビュー日	2024年4月30日

この地域の農家として、このプロジェクトは私にとって非常に重要です。このプロジェクトに参加する前までは野菜の栽培に苦労していました。適切な害虫駆除ができていなかったため、簡単に作物が害虫の被害にあっていました。さらに悪いことに、雨季には豪雨により、作物がだめになってしまうこともありました。



農民グループの畑に立つ Calisto さん

私は、この事業が始まると、自分が経験した困難を克服できる希望の光を見だし始めました。

このプロジェクトを通じて、農家グループのメンバーは、作物を雨から守るために、ビニールハウスを設置しました。さらに、地元で入手可能な材料を使用して有機農薬を作る方法を学びました。これは、化学的な農薬が土地を破壊するのを防ぐための有益な知識として役立っています。

今では、以前より野菜を容易に栽培できるようになり、地元の学校に自身の農産物を売り、学校給食プログラムに貢献しています。過去に経験した困難にもかかわらず、今や野菜栽培に必要な知識を得て、一年中作物を育てることができています。

名前	Joanina dos Santos
農民グループ名	Moris Foun 2
集落名 (Aldeia)	Raebou
村落名 (Suku)	Leimea Leten
性別・年齢	女性・36歳
インタビュー日	2024年4月30日

このプロジェクトの開始前、アッサベ郡の一部のコミュニティには、乾季に農業活動を行うための農業用水設備がありませんでした。この地域の農家は、生計を立てるために主に雨水に頼っており、乾季になると作物の栽培が困難になっていました。

このプロジェクトは、農村コミュニティを支援し、農業用水設備を建設し、事業実施期間後も農業用水設備を維持管理するための能力構築トレーニングを実施しました。

プロジェクトが終了しても、私はグループのリーダーとして、定期的に会合を開き、メンバーを組織し続けます。地域の生計を支援できるように、プロジェクトから学んだことは継続しなければならないと考えます。

今では私たちは地元で農産物を販売しています。農具が壊れたとき、私たちは共同で新しいものを購入するための資金を集めることができます。場合によっては、私たちは自分たちで設備などを修理する方法を知っています。私は、グループ農地の設備がちゃんと機能しているか定期的に点検することに全力で取り組んでいます。

このプロジェクトは、ジェンダー平等ワークショップや、パブリックスピーキング研修などを通して、私のような女性がリーダーになるための扉を開いてくれました。以前は、女性が人前で話す自信も機会もなく、ましてや農家グループを率いるなんて考えもしませんでした。



農民グループの畑に立つ Joanina さん

名前	Beatris Magalhaes
農民グループ名	Bui Aci
集落名 (Aldeia)	Biabote
村落名 (Suku)	Laubonu
性別・年齢	女性・66歳
インタビュー日	2024年 4月30日

以前、私たちのコミュニティは、農業活動のために遠方の川まで水を汲みに歩いていかなければなりませんでした。私は、水でいっぱい重いバケツを農場まで運ばなければなりませんでした。土地を耕し、苗を植え、その上さらに、作物に水をやるために長い距離を歩かなければならず、大変な労働でした。

このプロジェクトのおかげで、一年を通して作物を植えることができるようになりました。農地には点滴灌漑システムが設置されており、作物を植えるために遠くまで水を汲みに行く必要がありません。また、ビニールハウスが豪雨から作物を守ってくれます。

私は、グループリーダーに選出され、現在は12人の女性と6人の男性で構成されるグループを率いています。私たちのグループでは、女性と男性に均等に責任が割り当てられています。女性が畑を耕すとき、男性は農場を守るための柵を建てます。私たち全員がこのグループで重要なメンバーです。

プロジェクトを通じて、私とグループメンバーは、家庭内での公平な責任分担の重要性について学びました。女性が家の外で仕事をする必要がある場合、配偶者は家事を手伝います。これには料理、子どもの世話、学校への準備が含まれます。私は、男性が家庭や農家グループで公平な責任を分担すると、女性が通常担っている重い負担が軽減されると信じています。

私はこのプロジェクトに本当に感謝しています。野菜を栽培することで、子どもの教育を支援し、食料を手に入れ、市場で売ることができるようになりました。



農民グループの畑に立つ Beatris さん

名前	Vitoria Soares
農民グループ名	Nunuana
集落名 (Aldeia)	Leulara
村落名 (Suku)	Leimea Leten
性別・年齢	女性・35歳
インタビュー日	2024年4月30日

私は以前、この地域で雇用機会を見つけるのに苦労していました。このプロジェクトのおかげで、野菜を育てて売り、家族の収入に貢献できるようになったことをとても嬉しく思います。野菜を売って得た収入で、子どもたちのためにものを買ったり、学費を払ったりできるようになりました。

このプロジェクトで実施された活動に参加するのが楽しみでした。また、プロジェクトに感謝しています。園芸作物を増産するためのトレーニングに参加し、グループは、農業活動を行うために必要な農具を支援してもらいました。

農民グループ内でジェンダー平等が促進され、男女が協力して働き、私たちのグループは成功することができました。一緒に働くと、仕事を簡単に終わらせることができます。私は、このプロジェクトを通して収入を得られる機会を得ました。今後も農業活動を確実に続けていきたいと思っています。



苗床の前に立つ Vitoria さん